

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業

平成24年度

ホームスタート・こうとう 活動報告書



平成25年3月20日

ホームスタート・こうとう

平成24年度 ホームスタート・こうとう活動報告書

< 目 次 >

目次	2
はじめに	3
1. あいさつ	4
2. 訪問活動の概要と振り返り	11
3. 平成24年度利用家庭の声	16
4. 事務局会議の報告	19
5. ビジター会議の報告	20
6. 運営委員会の報告	21
7. 講演会の報告	22
8. HS Jエリアネットワーク研修会報告	25
9. ビジター養成講座の報告	26
10. ビジター養成講座修了生の声	29
11. 江東区協働事業提案制度（平成24年度）に採択	33
12. 成果と課題	34
13. おわりに	35
14. 資料編	36
資料1 ビジター養成講座の記録	36
資料2 協働事業プレゼンスライド	43
資料3 協働事業プレス発表資料	46
資料4 ホームスタート・こうとうリーフレット	47



< はじめに >

平成24年度は、WAMの助成事業を3年目も継続して頂くことができたお蔭で、利用家庭のニーズに応じて、家庭訪問事業を充実させることができました。

江東区の「区民協働事業」に応募し、6月の1次審査、8月の2次審査のプレゼンテーションも無事通過し、平成25年度実施事業として採択していただくことができました。

赤ちゃんが生まれた家庭を訪問して、実家の両親や友達のように、「かわいい赤ちゃんね。子育て大変でしょう。困ったことがあったら何でも言ってね。」と言って寄り添い「傾聴」「協働」を基本にして支援することで、子育ての不安や孤独感を解消し、親子の笑顔を作り出してきました。結果として虐待発生の予防、子育て困難の解決に貢献できました。

8月30日に、50名参加で「ホームスタート」紹介、ビジター養成講座案内の講演会を行いました。江東区子ども未来部子育て支援課田中洋二課長様から江東区長山崎孝明様の代理としてのあいさつを頂きました。

10月、11月に開催した第4回目のビジター養成講座で、新たに9名の修了生が誕生しました。現在、27名のビジターと2名のオーガナイザーと9名のスタッフ・運営委員の合計38名のメンバーで訪問活動を進めています。

ここまで活動を担って頑張ってきたビジターの皆様、ホームスタートを信頼して利用していただきました利用家庭の皆様、ご理解とご協力をくださいました関係者の皆様に深く感謝いたします。

平成24年度の活動において特筆すべき点は、江東区の区民協働提案事業に採択されたことです。このことで、これまで念願していて実現できなかったことが、実現できるようになりました。担当課の子育て支援課、関連課の保健予防課と準備の段階から、詳細協議会を持ち、信頼関係を強めることができました。2月3月には、保健予防課の「母子保健に関するオリエンテーション」と「4ヶ月児健診の見学研修」にビジターはじめスタッフが参加させていただきました。また、同じく3月に子育て支援課の子ども家庭支援センター訪問研修と山本係長様の虐待防止に関する研修も計画して頂きました。

研修を通して顔を合わせて話し合う関係ができ、新たな協働が生まれてきました。まだ本格的に始まっていない準備に段階でも「協働事業」の素晴らしさを実感しています。

平成24年度の「家庭訪問型子育て支援」事業のまとめに当たり、振り返ってみると、平成19年イギリスにホームスタートの視察研修に参加する前に、山崎区長様に報告に行き、江東区でも「家鄭訪問型子育て支援」が必要になっていることを訴えさせていただきました。そして、帰国後の準備・試行期間も含めて6年間、地道に実績を積み重ねて、ようやく江東区との「協働事業」にたどり着くことができました。江東区の関係者の皆様、ここまでの活動を支えご指導くださったWAMの担当者の皆様方、ホームスタート・ジャパンの皆様のお蔭です。重ねて全ての関係者の皆様方へのお礼を込めてこの報告書をお届けします。これからもご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

ホームスタート・こうとう代表 藤沢 千代勝

1. あいさつ

安心な子育てのまちの実現に向け

江東区長 山崎 孝明



この度は、「ホームスタート・こうとう」の事業実績をまとめられたとのことで、こうとう親子センター関係者各位の子育て支援への弛まぬご尽力に敬意を表しますとともに、心よりお礼を申し上げます。

江東区は、近年、人口もお子さんも増え続け、今後もその傾向が続くと予測されている東京23区でもめずらしい区であります。また、一方で、新しいマンションの多い地域では、近親者の支えや地域のつながりが希薄になりがちなことから、孤立した子育てに不安を抱く親御さんが少なくないとのことです。私たちのまちで子育てをすると決めた親御さんやそのお子さんのためにも、また、下町の情緒を伝えるこのまちの将来のためにも、これは、なんとかしなければいけません。

私は、基本構想において「未来を担うこどもを育むまち」を目指すとし、『江東こども未来プラン』では、「安心して子育てができ、家庭や地域社会の将来に夢や希望の持てるまち・江東」を掲げて、子育て支援に取り組んでいるところであります。しかし、その実現には、行政だけでなく、貴センターのように地域において実情に即した真摯な取り組みを続けている方々の力が不可欠です。

中でも、子育ての孤立防止に向けて、先駆的な取り組みであるホームスタートの活動に期待しておりましたところ、本年度の協働事業提案制度で提案いただいた「家庭訪問型子育て支援」が採択され、事業実施に向けて、来年度予算に組み入れたところです。区との協働を通じて、貴センターの活動がさらに確固たるものとして地域に認識され、安心な子育てのまち・江東の実現に向けて定着していくことを願ってやみません。

今後とも、貴センターのますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



協働事業実施に向けて

こども未来部子育て支援課長 田中 洋二

こうとう親子センターの子育て支援活動の中でも「子育て不安感・孤独感の解消」に向けて注目されていた「ホームスタート」の取り組みが、平成25年度、いよいよ区との協働による「家庭訪問型子育て支援」事業として、実施されることとなりました。協働事業提案制度での提案が採択されたことによるもので、再度のチャレンジの成果であり、まずは、お祝いを申し上げます。

今、子育て支援の大きな課題は、子育ての孤立防止です。

慣れない子育て生活のなかで元気回復の手立てが見つけられずにいる若葉マークのお母さんには、いつとき安心して休めるピットインが必要です。実家を離れ、地域にもつながりを持たないままの孤立した子育てでは、焦燥、不安のリスクも大きくなります。

職責上、虐待に至ってしまったケース、一歩前のケースを知るにつれ、居宅を訪ね、寄り添って、話を聴くことで力になるろうという皆さんのような方々の活動がいかに大切かということを実感しています。

協働事業の期間は1年。まずこの協働を通じて、子ども家庭支援センターや保健所など関係機関との信頼関係と連携の基礎づくりが重要です。また、南部地域を含め、遍く各地域のニーズに応じていけるよう、ビジターを養成する力、ビジターを指導するオーガナイザーの確保、法人化など組織力の強化も課題になってまいります。

この機会に、こうとう親子センターの「家庭訪問型子育て支援」が本区にしっかりと根付くよう、お役に立てればと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

江東区区民協働事業の展開に期待します

NPO 法人 ホームスタート・ジャパン 代表理事 西郷 泰之

こうとう親子センターのホームスタートの取り組みも今年度で4年となります。日本で最初にホームスタートの活動を開始した団体の一つです。

この4年間着実な歩みを続けて来られました。今年度も、孤立した家庭への訪問支援のためのホームビジターさんの養成や、ニーズの掘り起こしのための活動にも力をいれています。

その成果もあり、江東ケーブルテレビの「熱中区民活躍中」という番組をはじめとして、「江東の女性」や「東都よみうり」にも記事が掲載されました。加えて来年度（平成25年度）には江東区の区民協働事業に採択され、江東区との新しい形での事業の展開が予定されています。

今後とも、子育て支援が届かない家庭に、安心・安全な支援を届け、親たちのエンパワメントが図られるよう更なる取り組みを期待します。



輝いた子等の目

こうとう親子センター代表理事 渡辺 恵司



私の子育て支援の活動を始めた動機は14年前カンボジアの子ども達支援を始め、その子ども達の目の輝きに感動したことだと回想します。

その数年前サカキバラ事件や「17歳問題」等が次々と起こり社会問題となりました。間もなく乳幼児虐待が新聞、テレビで報道されるようになり、ニート、不登校、引きこもりは既にニュースにならなくなって行きました。しかし、無くなった訳ではなく今は、日常化し、更に3・11の震災でニュース性が乏しくなったからです。

私は12年前から月1回の子育て広場を開催するようになって何千組かの親子、パパママを見て来ました。広場へ来る親子は皆が皆幸せそうで笑顔が絶えません。

江東区に始まり各区、地方自治体でも子育て広場、子ども家庭支援センターが設置され子育て支援の政策が厚く成って来ました。次第に民間でも子育て支援のボランティア活動が各地で誕生して、20年前とは想像もつかないほど社会が子育てに取り組むように変化してきました。

しかし、それをまだまだ足りないと警告するように虐待通報は増加し、児童相談所は手いっぱいとなり、養護児童の収容施設は溢れていると報道されています。

何が原因なのだろうか。戦後の混乱、家庭を振り返る間もなく働いた経済の高度成長期にも見られなかった現象が、平和で物が溢れ、豊かさで幸せなはずの今日、どうして子ども達が育つ処に変化が起きて来ているのだろうか。かつては青少年犯罪や非行が社会問題となっていたが、今日その世代が順次親になって、其の上、情報化時代。社会は目まぐるしく変わり、高齢になった世代ほどついて行けなくなって来ています。

しかし、生まれて育てられる赤ちゃんは、今も昔も愛され育まれてこそ豊かに成長して行く事には変わりありません。それなのに肝心な育てる親の方に大きな変化が起こって、心豊かに子育てが出来なくなってきた家庭が増えつつあることが育児関係者の話や事件から知る事が出来ます。

かつて行政は家庭に踏み込まない、と云う不文律があったが今はそうも言ってもらえない時代に入ってきた感があります。

ホームスタートは、拠点・広場型の子育て支援では手の届かない部分に出かけて行って支援を届けます。子育て家庭をより良い育児に成るようにという従来の「指導型」ではなく、寄り添って「傾聴」し、一緒に苦楽を共にしながら、子育て支援をする活動で、親子の笑顔を作っていきます。地域で助け合い、支え合う社会をめざし、多くの方々の参加と普及に努力し、輝いた目の子ども達の溢れる社会を目指します。

「家庭訪問支援で救われる命があります」

白梅学園大学 教授 学長 汐見 稔幸



一番上の娘が子ども（私にとっては初孫）をはじめて産んだときのことです。娘は引っ越したばかりの東京の郊外都市で母親業をスタートしました。近隣に友だちはいません。慣れない環境で、初めての育児を、朝から晩まで一人で、手探り状態で始めました。しかし、体調がすぐによくならなかったこと、それまで比較的活発だった性格の人間が急に外に出られない生活になったことなどで、すぐ育児ノイローゼになってしまいました。何かには怯えたようになり部屋に閉じこもって出てこなくなることもありました。

そのとき、その自治体が独自に行っていた巡回訪問の助産師さんが週1の割合で来てくれたのです。助産師さんは娘のことをよくわかってくれ、話し相手になったり、育児のさりげない知恵を教えてくれたりして、上手に励ましてくれました。娘は不安から逃げられない環境からようやく開放され、顔色、顔つきが急に明るくなりました。私は命を救われたと娘は言っています。

育児で大変なときは何回かありますが、とりわけ大変なのは育児をはじめたばかりのときです。そういう時期に親しく訪問してくれてあれこれアドバイズしてくれ聞いてくれる、やさしい人の存在意義は限りなく大きい気がします。訪問者のビジターは、多様な新米母親にいずれも適切に対応できる力をぜひ訓練して身につけて、そして子育て中のママパパを支えていって欲しいと願います。（汐見稔幸@白梅学園大学）

「ホームスタート・こうとう」

ホームビジティングに期待を寄せて

カウンセラー 西田 葉子



子育ては人生の中でも最も時間とエネルギーを使う大事な仕事であることは昔も今も変わりはありません。

「こんなに頑張っているのにどうしてうまくいかないの？」

「子どもの泣き声を聞くと自分が責められているような気がするんです」

「こんな時、他の人はどうしているの？」と子育てに負担を感じたり、自信をなくしたりしたママ達の悲痛な声が聞こえてくることがあります。

私たちは今や自分のケータイやパソコンの中に世界中のあらゆる情報や欲しい知識を手にし、一見恵まれたとても便利な時代に生きることになりました。反面、忙しく、個性現

象の進む中、いつの間にか他人に弱みを見せにくくなっている現代の暮らしぶりに気がつきます。

「ひとりの子どもが育つには村中の人の知恵と力が必要」とはアフリカの諺ですが、沢山の人に関わって貰った子どもは命の根が大きく育ち、自分に自信が持てるようになるものです。

江東区は23区でもめずらしく人口が増え続け、子育て世帯も多いと聞いています。要請をした家庭にビジターさんが来てくれて、丁寧に子育ての辛さ、苦しさ、困難さを受け止め、やさしく聴いてくれたり、あるいは解決への道を一緒に考えてくれたりするとしたらどんなに心強いことでしょう。自分の味方に出会えたという安心した気持ちになれるのではないのでしょうか。人は人によってこそ立ち直り、励まされて何とかやってみようという前向きな明るい気持ちにもなれます。

支援される側も支援する側も、共に学びあえる「ホームビジティング」が「区と協働の事業」に採択されたことは、嬉しい限りです。これまでの地道な取り組みが、子育て中の親子の支えとなっていることや区民の中での広がり認知されてきていることを実感しています。ホームスタートの活動によって、親子の笑顔が今後ますます広がっていくことを心から期待しています。

「ホームスタートの事業」が一層

広がる事を期待しています



岡野子どもクリニック医院長 岡野 周子

地域の小児科医として、子どもさんの病気の治療をし、代弁をし、親御さんの子育てをサポートする立場ではありますが、サポートの部分はほとんど出来ないに等しいのです。サポートシステムとの協力の必要性を日頃感じておりましたところ、昨年ホームスタート・こうとうの藤沢さん、こうとう・親子センターの渡辺さん、オーガナイザー皆さんの発足当初からの活動をお聞きする機会を得ました。本当に頭が下がる思いでした。

虐待に至る、あるいは虐待までいかななくても、我が子に対して愛情を感じられなくなるなどの心の変化は、どの親御さんにとっても無縁なことではなく、連続的な変化の位相の違いのように思われます。多くは揺れ戻るのですが、煮詰まった困難なとき、十分に訓練された無償の寄り添いは、風穴をあけ、我が子の様子を見る事が出来るところへ戻してくれる力を与えてくれます。

昨年は、数名困りを感じておられるお母様に、活動をご案内しました。誰かが見てくれて、地域のなかで一人じゃないのだという気持ちをお母様が抱くことで、心が快復していくように感じられました。物理的生活面もふくめ必要としている親御さんが多くおられます。この活動が、さらに広く認知され、支援されるよう心から祈っております。「ホームスタートの事業」が一層広がる事を期待しています

共同の子育てを



南砂子ども家庭支援センター所長 依田幸子

ホームスタート・こうとうが掲げる、待つ支援から届ける支援へは、子育て中の方にとって本当に心強い味方であると思います。「子ども一人を育てるには村じゅうの人が必要」というアフリカの古い諺にあるように、子育ては親だけでなく、地域社会の多くの人がかかわるものであり、地域の人々の共同の中で子どもは育ってきたはずです。子どもとだけ向き合う育児ではなく、ママ自身も他の人とおしゃべりを楽しんだり、手を借りて少しゆったりとした時間を過ごすことで、元気を回復していくことでしょう。そして我が子の可愛さを沢山発見して欲しいと思うのです。

自分が頑張るしかないと思っている方たちに、「しんどかったら助けてって言ってね」というメッセージを是非届けて欲しいのです。今は気軽に「助けて」が言えない時代になってしまったようですが、それは決して恥ずかしい言葉ではなく、肝心な言葉であることを伝え、温かい想いと優しい手をどうぞ届け続けてください。

「実家のお母さんや友達が手伝いに来たように」



シュエット法律事務所 弁護士 大谷 惣一

私は、弁護士として子どもの権利の擁護に取り組んでいますが、児童虐待は、大きな問題であることを実感しています。

虐待の要因としては、経済的不安や、不安定な夫婦関係もさることながら、都市化（地域コミュニケーションの希薄化）や核家族化が進み、育児を担当するお母さんの育児不安や地域からの孤立によるストレスが増大していることなども虐待の重要な要因と言われています。

ホームスタート事業は、「無償のボランティアが家庭に訪問して、実家のお母さんや友達が手伝いに来たように」「子育てを応援」するもので、育児を担当するお母さんの育児不安や地域からの孤立感を軽減しすることで、児童虐待を予防することができるのではないかと期待しています。

今後、江東ホームスタートの事業が、広く受け入れられ、子育てを、社会全体・地域全体で協力し合って行っていく契機になるよう、頑張っていただければと思います。

「ホームスタート・こうとう」の活動に寄せて



NPO 法人ホームスタート・ジャパン 理事 雲雀 信子

ホームスタートこうとうのホームビジター養成講座には、1回目から毎年参加をさせていただいています。藤沢先生をはじめオーガナイザーのお二人が、質の高い家庭訪問型の子育て支援を継続的に実施していくために、直接家庭を支援するホームビジターの育成について、大変心を尽くされている様子が毎回伝わってきて、とても良い雰囲気での講座が行われています。

次年度から、区の協働事業としてホームスタートを展開されるとのことですが、これは、今まで積み重ねてきた丁寧な実践が評価されたものだと考えています。そして、フレンドシップにあふれた多くのホームビジターの皆さんのおかげでもあります。

今後もチームワークの良い皆さんのお力で、江東区の多様な家庭のニーズを改善し、一人でも多くの子どもたちが、地域コミュニティの中で健やかに育っていかれます様に願っています。



2. 訪問活動の概要と振り返り

オーガナイザー 戸田洋子 高橋由美子

平成24年度は、試行期間も含めこれまで5年間活動してきた中で徐々にこの訪問活動が広がりを見せてきたと感じる1年間でした。訪問世帯数は、ホームスタートの正式スキームに認定され統計を取り始めた平成22年に16世帯、23年に32世帯、そして今年は41世帯（継続利用11、新規申込み30）と着実に増えてきています。

ビジター（ボランティア）のメンバーも、平成22年10名、23年18名、そして今年の24年は27名（登録総数）とビジター養成講座によって陣容を充実させてきています。1世帯の訪問の目安を2～3か月としていますが、様々な家庭の事情がありスムーズな活動になるとは限りません。私たちは、一家庭一家庭丁寧な気持ちで寄り添って行くことを大事にしています。

しかし訪問を待っている家庭に、より多くのビジターが訪問活動をして頂きたいので、25名のビジターとオーガナイザー2名が協力し合って、日々利用家庭からの連絡と訪問活動の報告を受けながら、有効となる活動になるように力を注いでいます。

これら全体を支える組織として、運営委員会（トラスティー）を設けて、医師、助産師、弁護士、民生委員・相談員、保護司、おもちゃコンサルタント、元保育士、元教師など専門職の方々に、見守りアドバイスを頂いています。

今年から利用家庭の地域別統計もとりました。利用の多い方からあげると、砂町地区8名、豊洲地区7名、白河地区6名、富岡地区4名、小松橋、南砂地区3名となっています。

ビジターの居住地域も調べてみると、小松橋地区、大島地区4名、白河地区、東陽地区、亀戸地区、南砂地区3名、富岡地区2名、豊洲地区、砂町地区1名となっており、利用家庭の多い、砂町、豊洲地区に1名だけなので、今後の課題となっています。

訪問家庭のニーズとの関係では、孤立感の解消、子供の心の健康、子供の成長発達を促す機会を作る、子育てサービスの利用方法を知る、親自身の心の安定がニーズが高く、訪問活動によってこれらが緩和され、満足度の高い訪問活動になっていることがわかります。

訪問活動の終了時の感想や意見をみると、「話を聴いてもらって心が軽くなった。」「この気持ちを誰かに聴いてほしかった。」「ドアを開けて新鮮な風が入ってきてくれた。」「ビジターが週1回来てくれるのを心待ちにしている。」「こういう訪問活動があることをもっと早く知りたかった。」など本当に待たれていたことがよくわかりました。

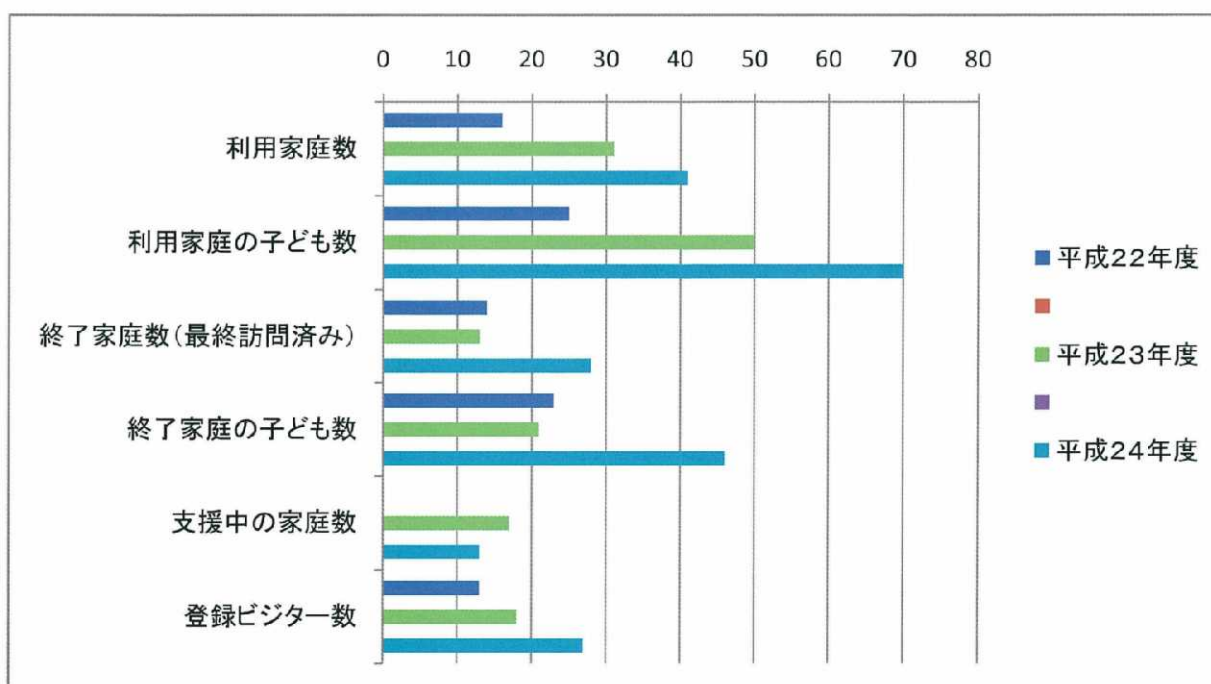
ビジターには、交通費のみで全くの無償のボランティア活動ですので、大変感謝しております。毎月1回ビジター会議で悩みや疑問を出し合ったり、講師に来ていただいたりしてフォローアップ講座を開いて、モチベーションアップを図っています。ビジターがいなければ成り立たない活動ですから、ホームスタートの宝物でありとても大きな存在です。

集計結果 1 訪問活動に関する集計
 集計期間：2012/04/01～2013/03/11

集計：ホームスタート・こうとう

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用家庭数	16	31	41
利用家庭の子ども数	25	50	70
終了家庭数(最終訪問済み)	14	13	28
終了家庭の子ども数	23	21	46
支援中の家庭数	0	17	13
登録ビジター数	13	18	27

訪問回数 (オーガナイザー、ビジター)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	133回	236回	234回

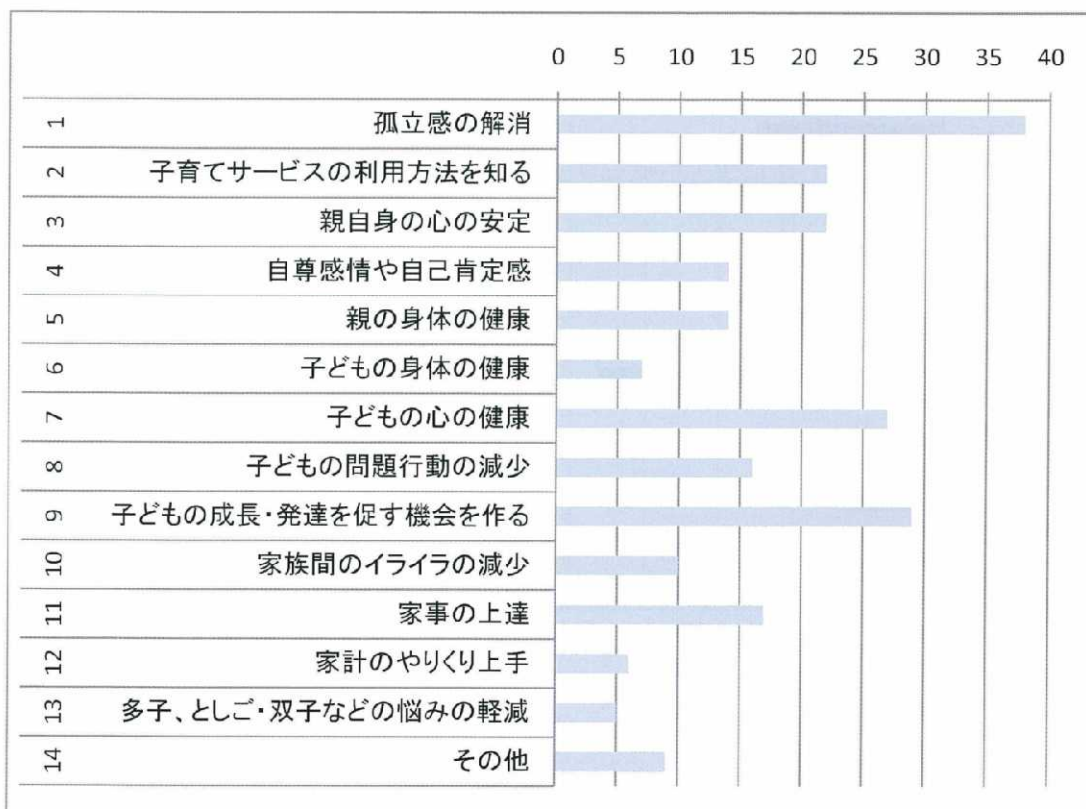


集計結果2 利用家庭のニーズ合計数

集計期間：2012/04/01～2013/03/11 (訪問家庭 41件)

集計：ホームスタート・こうとう

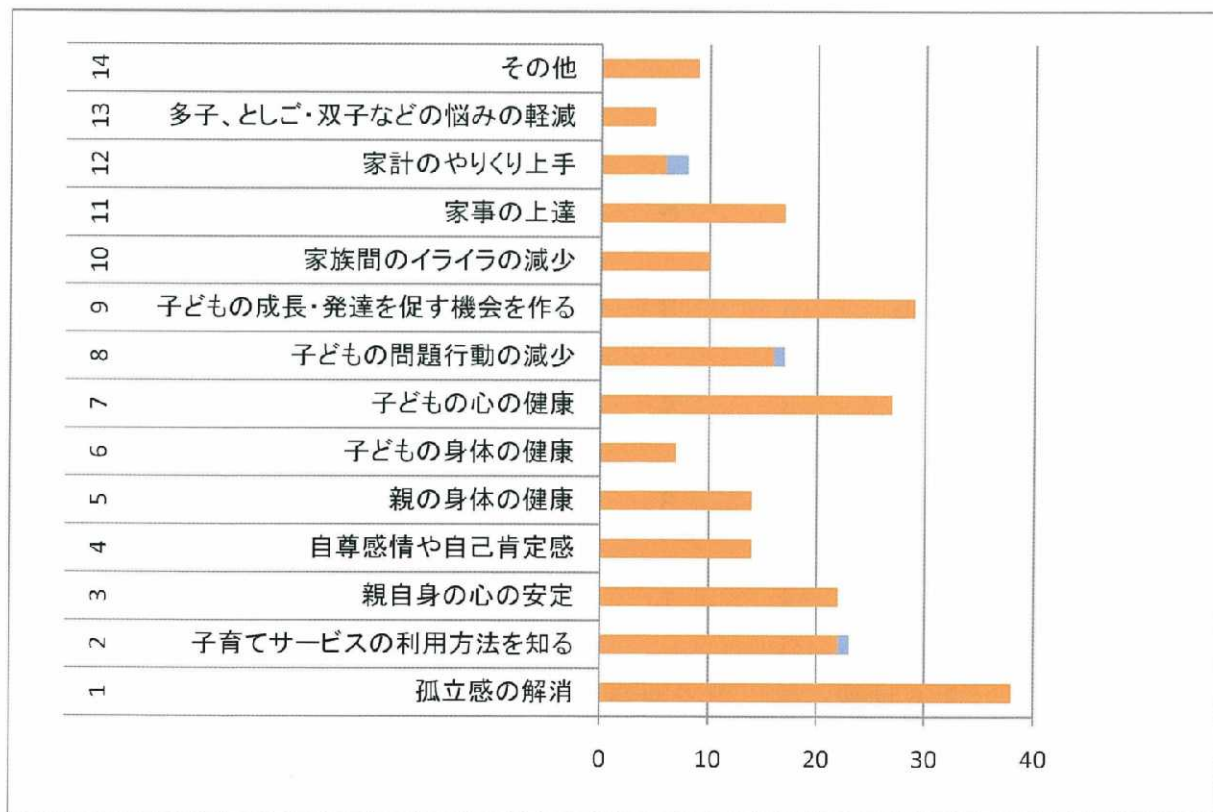
ニーズ番号	ニーズ内容	ニーズ数
1	孤立感の解消	38
2	子育てサービスの利用方法を知る	22
3	親自身の心の安定	22
4	自尊感情や自己肯定感	14
5	親の身体の問題	14
6	子どもの身体の問題	7
7	子どもの心の健康	27
8	子どもの問題行動の減少	16
9	子どもの成長・発達を促す機会を作る	29
10	家族間のイライラの減少	10
11	家事の上達	17
12	家計のやりくり上手	6
13	多子、としご・双子などの悩みの軽減	5
14	その他	9



集計結果3 訪問を終了した家庭の最終評価ニーズ充足度
 集計期間：2012/04/01～2013/03/11 (訪問終了家庭 28件)

集計：ホームスタート・こうどう

ニーズ番号	ニーズ内容	達成	変化なし
1	孤立感の解消	38	
2	子育てサービスの利用方法を知る	22	1
3	親自身の心の安定	22	
4	自尊感情や自己肯定感	14	
5	親の身体の健康	14	
6	子どもの身体の健康	7	
7	子どもの心の健康	27	
8	子どもの問題行動の減少	16	1
9	子どもの成長・発達を促す機会を作る	29	
10	家族間のイライラの減少	10	
11	家事の上達	17	
12	家計のやりくり上手	6	2
13	多子、としご・双子などの悩みの軽減	5	
14	その他	9	

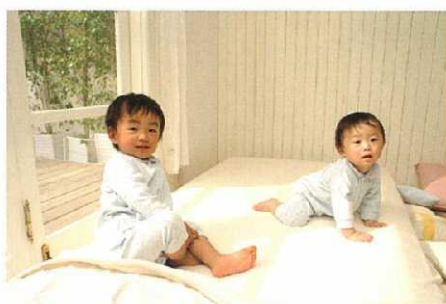


達成及び一部達成

変化なし

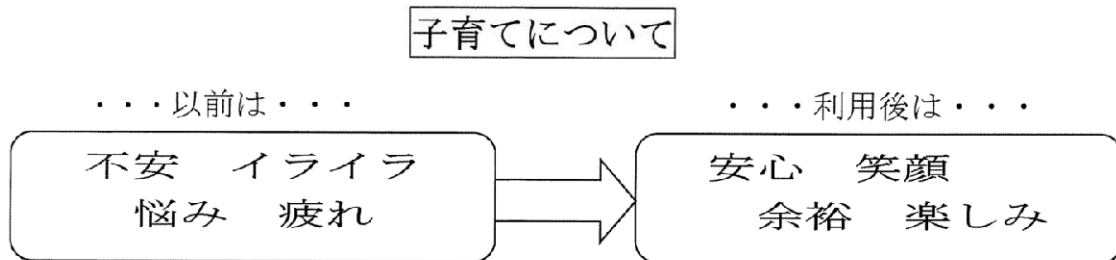
ホームスタート地域別利用家庭数

地区区分	H 2 2 年	H 2 3 年	H 2 4 年 (H 2 5 年 3 月 1 1 日現在)	ビジター 居住地
白河地区	1	2	6	3
富岡地区		2	4	2
豊洲地区	1	6	7	1
小松橋地区		1	3	4
東陽地区		2	2	3
亀戸地区	2	8	1	3
大島地区	5	3	3	4
砂町地区	1	4	8	1
南砂地区	4	3	3	3
区 外	2	1	4	3
合計	1 6 世帯	3 2 世帯	4 1 世帯	2 7 名



3. 平成24年度 利用家庭の声

HS ホームビジターによる家庭訪問の効果と課題についてお聞きします
あなたやあなたの家庭にとってどんな意味があったと思いますか？



○二人の息子の子育てで、疲れたりイライラしたりしていたが、ビジターさんにきてもらい、少しでも気が晴れて、子ども達に優しくすることができるようになり、家族みんなにプラスになりました。

○出産後、子ども優先、子どもの時間、子どもの事で一杯一杯だったが、今回子どもを通し、自分の時間を見つめる機会にもなりました。

○何が不安なのか整理でき、より楽しく育児に向き合う気持ちになりました。

○家庭の中で、こうあるべきと自分を追いつめていました。ビジターさんにお会いし、自分のがんばりや子どものことをほめて頂けたので、とても安心できました。夫にも自分の考えを主張できるようになりました。

○悩む時間をのばさずに対応してもらえたことで、母も子も気持ちが変わりました。第三者が入る事で、新たな見方・考え方ができるようになりました。

○第三者がいらしてくださったおかげで、子育てについて、家族で話すようになり問題点に気づくことができました。子育てのための知恵を授かりました。

○子育ての悩みというよりは、私の精神的な支えと息抜きになりました。

○育児経験のある先輩とマンツーマンの関係になり、皆の前では聞きにくいことなどもいろいろ話せて、気持ちが楽になりました。

○子育てをサポートしてくれる人が地域にいることを実感できました。子どもは社会で育つものと思わせてくれました。私自身、この街で子育てしていく力をもらいました。一番苦しい時にいてくださったことは忘れません。感謝しています。

子どもの様子

○子どももビジターさんが来るのを楽しみにしていて、一緒に過ごすことで刺激になり、お絵描きや折り紙などができるようになり、成長を感じるようになりました。

○とてもいい時間を過ごすことができました。

○私自身がたくさんおしゃべりしたい時もあり、そういう時は、子どもにじゃまされるので、たまに二人のビジターさんが来てくれて、一人は子どもの相手、もう一人は私の相手をしてもらえるようなサービスがあるとよいと思いました。大人が三人いれば、会話がもっと弾む気がします。

家庭訪問型子育て支援について

○大変意義のある地域社会に必要とされている活動だと思います。

○生き生きカレンダーを見て今回お願いしましたが、無料でできていただけるなんて正直信じられなくて、半信半疑でした。もう少し活動内容など詳しく書いてもらえると利用しやすいと思います。

○このようなサービスがあるということが、もっと認知されていくといいなあと思います。その反面、対応できる人材の育成や、その後のケアへの転換（必要な場合）など、活動の質も問われているのだらうと思います。

○ホームスタートの活動があることをもっと知ってもらい、子育てに悩んでいる人に、悩みを抱え込まずにいてほしいです。

○数回の訪問だけでなく、継続的に関わってもらえると、より孤立感が減ると思います。同じビジターさんだと依存関係になってしまうのであれば、交代してもらってもいいし、あとは、訪問以外にメールや電話のやりとりもできるような体制もよいと思います。

○ビジターさんとその後、多く連絡を取るのには難しいと思いますが、半年後でも、またもう一度会えたらうれしいと思います。

○出産後すぐの方には、毎週でもおいと思います、子どもの月齢、家庭の様

子などで月2回の訪問もあってもよいと思いました。訪問期間は長くなり大変だと思いますが、2才前後だと、期間を長くゆっくり訪問が嬉しいと思います。○妊娠中に体調が悪く、保育園などを利用していたのでそういうときに利用できていたら、上の子にとっても私にとっても良かったかもと、今になって思います。

○引き続き見守って頂けたら嬉しいので、月一回、訪問をお願いし、いろいろ成長の様子、悩みを聞いていただければいいなと思います。

○初回に、ビジターさんのプロフィールをいただけたら、すぐに話題が見つかり会話が弾むのではないかと思います。名前・居住地域・お子さんの有無（男女）・育児の思い出・趣味など。

オーガナイザーについて

○日時をきちんと守り、とても感じのいい穏やかさに落ち着きをもらいました。温かい方で、子どもとの関わり方が優しく、子どもが楽しそうに遊んでいたのがとても嬉しかったです。直接きてくさる方との連絡調整もとても感じよくしてくださいました。途中で子どもが入院したときも、病院まで来てくださり、感激しました。

○急な変更・調整もスムーズに進めていただきました。

○連絡がなかなかつかず迷惑をかけたが、何度も連絡していただいてよかったです。

○話しやすかったです。気持ちよく希望が伝えられました。

○私の気持ちに合わせて訪問してくださることは、とても助かります。

○感じもよく、温かく聴きに回ってくださる方だったので、母も子も、安心して訪問を楽しみにしていました。

○とてもよくしてください、感謝しています。

○大変お世話になり、ありがとうございました。



4. 事務局会議の報告

事務局会議は原則として第3水曜日または木曜日に開催しました。

4月19日(木)	5月17日(木)
6月20日(木)	7月18日(水)
8月16日(木)	9月19日(水)
10月11日(木)	11月14日(水)
12月13日(木)	1月16日(水)
2月21日(木)	3月20日(水)

メンバーは、代表藤沢、オーガナイザー戸田、高橋、会計鈴木、運営員渡辺、スーパーバイザー太田の6名で、運営の基本について、話し合いました。

主な議題は、

1. 訪問活動について
2. ビジター会議について
3. 講演会、養成講座などの準備について
4. 今後の課題について
5. その他

<今後の事務局体制の充実に向けて>

平成24年度は、江東区協働事業提案制度に応募し、平成25年度実施事業として採択されました。

協働事業実施にむけて、担当課のこども未来部子育て支援課、保健所保健予防課、地域振興課協働事業担当との詳細協議が、10月から2月までに4回行われました。事業実施計画、予算、協定書、仕様書等の作成が行われました。更に、事業の目的達成と合わせて実施団体と担当課の信頼関係を築くことが大事な「協働」の中身になりますので、準備の段階から研修を通して、信頼関係構築が進められました。

2月3月に保健予防課の母子保健事業に関するオリエンテーションと4ヶ月検診見学研修が実施されました。また、子育て支援課関係では、区内5か所の子供家庭支援センターの訪問研修と3月28日山本係長の「江東区の児童虐待防止・予防の施策について」研修を計画して頂きました。

これらを通して、企画、運営、調整など事務局体制がしっかりしていないと十分な連携・協力ができないことが一層明確になってきました。

平成25年度は、オーガナイザーを2名新たに養成し、ビジター養成講座も5月から7月にかけて早めに実施し、事務局員のメンバーも増員し、役割分担を明確にして、実務を確実に果たしていけるように事務局体制の強化を図ってまいります。



5. ビジター会議（フォローアップ講座）の報告

ビジター会議は、毎月原則として第4木曜日に開催し、フォローアップ講座と組み合わせて、実施してきました。

4月26日（木）	5月24日（木）
6月28日（木）	7月26日（木）
8月25日（土）	9月27日（木）
10月25日（木）	11月22日（木）
12月20日（木）	1月24日（木）
2月28日（木）	3月28日（木）



ビジター会議は、毎回ほとんど全員のビジターが参加し、フォローアップ研修で学び、資質の向上を図ったり、活動上で生まれた疑問や悩みなどを出し合いシェアリングをおこなったりして、ビジターにとってはなくてはならないものになっています。

平成24年度のフォローアップ講座は、次のような内容で実施しました。

フォローアップ講座一覧

- ・ 4月26日（木）「子供の成長発達と手作りおもちゃ」ワークショップ
講師 おもちゃコンサルタント 高橋 由美子氏
- ・ 6月28日（木）「夏の病気と予防注射」
講師 おかの小児科医院長 岡野 周子氏
- ・ 7月26日（木）「保育現場から見える子どもの成長・発達」
講師 保育士 加藤 律子氏
- ・ 8月25日（土）「幼児安全法講習会」（救命法・AEDを含む）
講師 日本赤十字社の専門家
- ・ 9月27日（木） 「秘密保持について」
講師 弁護士 大谷 惣一氏
- ・ 2月28日（木） 「新母子手帳とその活用」
講師 開業保健師 渡邊 玲子氏
- ・ 3月28日（木） 「児童虐待の防止と予防」
講師 子育て支援課要保護支援担当係長 山本 訓子氏

6. 運営委員会の報告

第1回運営委員会（24年7月5日）、第2回運営委員会（平成25年2月7日）が、江東区立東川小学校ランチルームで開催されました。

<運営委員会メンバー>

委員長 藤沢千代勝（東京都教育相談センター相談員）
オーガナイザー 戸田洋子（保護司）高橋由美子（おもちゃコンサルタント）
会計 鈴木壽子（元保育士）
スーパーバイザー 太田喜乃（親と子の相談員）
委員 渡辺恵司（こうとう親子センター代表）、石村あさ子（助産師）、
太谷惣一（弁護士）、岡野周子（小児科医）
監査 川野堂子（元教育委員長）

<会の概要>

司会進行 藤沢 記録 高橋

1. あいさつ ホームスタート・こうとう代表 藤沢
2. 自己紹介
3. 活動報告
 - (1) 24年度の方針について オーガナイザー 戸田
 - (2) 訪問活動の概要 オーガナイザー 戸田
 - (3) 説明会・講演会について オーガナイザー 高橋
 - (4) フォローアップ講座の報告 オーガナイザー 高橋
 - (5) ビジター養成講座について オーガナイザー 高橋
 - (6) 区との協働事業について ホームスタート・こうとう代表 藤沢
4. 会計報告 会計担当 鈴木
5. 今後の活動について 協議



7. ホームスタート説明会・講演会の報告

8月30日(金)ホームスタート説明会・講演会を行いました。ホームスタートジャパン代表、大正大学教授西郷泰之先生を講師にお招きして「待つ支援から届ける支援へ」というテーマで講演を行っていただきました。

参加者は50名で関心の高まりを感じました。

江東区長山崎孝明様の代理でこども未来部子育て支援課長田中洋二様から冒頭でご挨拶を頂きました。「江東子ども未来プラン」の実現、そして「虐待0の江東区」をめざした江東区の取り組みが一層先進することを期待したいと思います。そして、私たちホームスタート・こうとうとしても役割分担を明確にしながら、民間のボランティア団体だからこそできるきめ細かな隙間を埋める「家庭訪問型子育て支援」を一層前進させてまいりたいと思います。

<参加者のアンケート結果>

50名の参加者中アンケート回収者数 44名

とても満足 14名 満足 28名 やや不満足 2名、不満足 0名

<感想>

- ・ 素晴らしい活動なので、少しでも広めたいと思いました。
- ・ 講師の西郷先生の説明に情熱が伝わり、ホームスタートの“意”が理解できました。
- ・ 一法的な話でなくてよかったです。
- ・ ホームスタートの重要性がわかりました。
- ・ グレーゾーンへの支援の必要性を強く感じます。
- ・ 「家庭訪問型子育て支援」を始めた努力に共感しました。敬意を表します。
- ・ ホームスタートの活動を具体的に知ることができてよかった。
- ・ 講座の件ですが、重要性はわかるのですが毎週木曜日と決められると、全部はでられません。単位制にして、休んだ分は、次回とれるようにしてほしいです。
- ・ 子育てには一時的に孤立することがあります。その時にこのホームスタートの果たす役割があります。孤立した時に何かが起こり、その危険なことは、誰にでも起こりうることです。命を救う子育て支援です。地域みんなで支援し、尊い命を守っていきましょう。
- ・ ホームスタートビジター養成講座を受講する決心がつきました。
- ・ ボランティアだからできること（フレンドシップ）が理解できました。



渡辺恵司代表挨拶

～私たちの街に人と人とのあたたかいつながりを
すべての子どもによりよき人生のスタートを～



家庭訪問型子育て支援 ホームスタート説明会

●日時：平成24年8月30日(木) 14時～16時（受付開始 13時30分）

●対象： 子育て支援に関心のある方、行政関係者

●内容： 1・基調講演

「ホームスタートの挑戦 待つ支援から届ける支援へ」

講師：西郷 泰之氏

（NPO法人ホームスタート・ジャパン代表理事 大正大学人間学部教授）

2・第4回ホームビジター養成講座の案内

●参加費： 無料 託児 なし

●会場： 江東区教育センター 大研修室

（東陽2-3-6）東西線・都バス東陽町駅下車徒歩5分

●申込・問合せ： TEL 090-5563-8265(藤沢)

Fax 03-3685-3267(裏面の項目でお申し込み下さい)

ホームスタートとは・・・

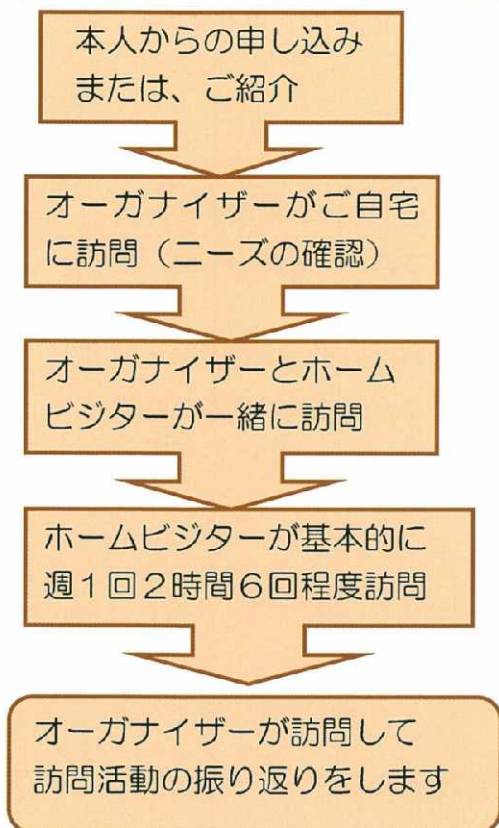
6歳以下のお子さんがある家庭に、養成講座を受講したホームビジター（ボランティア）が、週1回2時間程度6回を目安に、無料で訪問活動をする家庭訪問型子育て支援です。

活動内容は・・・

- *お話を聴く
- *外出に付き添う
- *家事や育児を一緒に行う



ホームスタート活動の流れ



- *オーガナイザー(コーディネーター)
- *ホームビジター(ボランティア)



待つ支援から届ける支援へ

～利用者の方から～

- 話をすることで、私のストレスが軽減され
普段も比較的気楽に、子どもと接することが
できるようになった。
- 子どもにとって、母親以外の人とふれあう
良いきっかけになりました。

～ホームビジターの感想～

- 訪問するたびに、成長している親子に会えるの
が最高の喜びです。
- 特別なことをしなくても「傾聴」し「寄り添う」
だけで、色々なことが解決できる体験をして
母親の持っている力に驚いています。

◆第4回ホームビジター養成講座のご案内◆

月 日： 平成24年10月4日（木）～毎週木曜日 全8回
時 間： 10時～16時
会 場： セントラルプラザ大島 4階 会議室
（大島5-10-10 都営新宿線大島駅A1出口直結）
内 容： オリエンテーション、子どもの理解
傾聴の意義と方法、家庭の中で活動するとは
定 員： 16名

<全日程参加し、受講後、訪問活動に携わって頂ける方>

家庭訪問型子育て支援「ホームスタート説明会」申込書 *締切 10月1日(月)
FAX:03-3685-3267 Eメール:mail@homestartkoto.com

お名前 _____ TEL _____ FAX _____

メールアドレス _____ @ _____

ご住所 〒 _____

8. HSJ主催エリア別地域研修会報告

ホームスタートジャパン（HSJ）主催のエリア別地域組織ネットワーク推進事業の検討委員会全大会が、7月7日、8日、大久保地域センターで開催され、江東区からは、藤沢が代表で参加しました。

これを受けて、東京関東エリア研修会が、11月18日19日の1泊2日で府中市ヒルトンホテルで開催され、オーガナイザーの戸田、高橋、トラスティーの藤沢の3人が参加しました。

「関東ブロックホームスタート・オーガナイザースキルアップ研修」

11月18日（1日目）

スキームのマネージメントに関するセッション ファシリテーター 山田幸恵
ホームスタートが対象とすべきケースかどうかの基準について 相原教授
夜の部 懇親会

11月19日（2日目）

ケーススタディ 講師 日本社会事業大学専門職大学院 宮島潔先生
クロージング
<感想>

相原先生が、各スキームのヒヤリングをもとに、判断の難しいケースを判断する基準になる考え方を提示してくださって、これまでにない質の高い研修ができました。各地の地域スキームで抱えている問題が共有でき、解決策を考えるよい機会になりました。利用家庭への告知、ビジター養成などの工夫がとても参考になりました。

「ホームスタート・ホームビジター感謝デー&交流研修会」

12月16日には、関東エリアの「ビジター感謝デー」が大正大学を会場に88名の参加で開催されました。

ビジターさんの笑顔は、親子の笑顔！ビジターさんは、ホームスタートの宝物です！クリスマス飾りでデコレーションのもと会場は笑顔であふれていました。

午前中は、東京未来大学の野田先生による「ビジターの基本的態度と対応スキルをか考える」がロールプレイによる演習を交えて行われました。

お昼には、地域スキーム紹介タイムもあり盛り上がりました。

午後は、オーガナイザーさんがふぁしりーテーションをしながら、ビジターさんがヒロ路思っていることを出し合って話し合うグループワークが行われました。

<感想>

関東近都県の大勢のビジターさんが一堂に会して行われた「ビジターDay」は、研修もためになりましたが、同じくビジターとして活動している仲間同士の、交流ができて励まされました。

9. ホームビジター養成講座の報告

第4回ホームビジター養成講座は、平成24年10月4日から11月29日まで、江東区教育センターで開催されました。13名の申し込みがあり、9名の方が修了しました。

ホームビジターに求められる資質や能力は、

1. 自分の意志でボランティアとして子育て支援に参加すること
 2. 家事や育児を代わりにやってあげて楽にする支援の仕方ではなく、「傾聴」し、気持ちにより添い「協働」し、一緒に喜びも悲しみも共にすることでエンパワーメントすること
 3. 上から目線で、指導したり、教えたりするのではなく、聞かれたことに答え、求められたときに応える、横並びで対等な関係で、一緒に学びながら成長するスタンスに徹すること
 4. 家庭を支援することは、その家庭のありのままを受け止め、尊重し、よい家庭を作ろうとするのではなく、その家庭のよさを見つけて伸ばすことである
 5. 家庭に入らせて頂いて支援するので、その家庭のやり方を理解し、約束を守り、勝手に行動しないでやっていいかどうかを聞いて同意を得てから何事も行うなど信頼関係をつくり、信頼関係を大事にすること
 6. 同様に、家庭に入って知り得たことは全て、個人のプライバシーなので、「守秘義務」を守り、口外しないこと
 7. 児童虐待やDVや病気などの専門家の支援が必要な事例に遭遇したときは、オーガナイザーに相談し、専門機関と連携を取って適切な対応ができるようにすること
- などなど、新しい子育て支援の原理原則を学び、これまでの古いやり方を改める必要があります。ですから、特に「傾聴」を中心にロールプレイのような体験を通して学ぶ研修を積み重ねる必要があります。ホームスタートの研修は、1日5時間を8日間、合計40時間かけて研修します。かなりハードなので、1日も休まず修了する方が限られてしまいます。しかし、質の高い、信頼性の高い訪問活動にはこれが必要なのです。

今回の講座には、北海道函館市のこども未来部の職員2名の視察訪問がありました。ホームスタートの必要性が各自治体や全国に広がっていることを感じました。

8日間の詳しい内容は、資料編に掲載しましたので参照してください。



ホームスタート（HS）の家庭訪問型子育て支援

ホームビジター養成講座

●会場 セントラルプラザ大島4階会議室(江東区大島5-10-10) ※地図は裏面参照
 ※10月18日(木)のみティアラこうとう小会議室

●参加費 無料 ●定員 16名

●対象 全日程参加し、受講後に訪問活動に携わっていただける方



日程	時間	講座内容	講師
10月4日 (木)	10時～12時	「オリエンテーション」 自己紹介ワークショップ・養成講座申込書記入	オーガナイザー 戸田洋子 高橋由美子
	13時～16時	「家庭訪問型子育て支援 ボランティアの役割と意義」	ホームスタート・こうとう代表 藤沢 千代勝
10月11日 (木)	10時～12時	「子どもの理解」 子どもの発達、障害、人権、子どもへの関わり方	ホームスタートジャパン理事 雲雀 信子氏
	13時～16時	「家庭とは何か、親とは何か」 価値観と多様性	
10月18日 (木)	10時～12時	「傾聴の意義と方法①」	カウンセラー 西田 葉子氏
	13時～14時	「傾聴の意義と方法②」	
10月25日 (木)	10時～12時	「家庭で活動する上でのポイント」	オーガナイザー 戸田 洋子 高橋 由美子
	13時～16時	「ホームビジターの実務」	
11月1日 (木)	10時～12時	「江東区の子育て支援政策」	江東区子育て支援課課長 田中 洋二氏 南砂子ども家庭支援センター 所長 依田 幸子氏
	13時～16時	「問題や悩みのある家庭への理解」	
11月8日 (木)	10時～12時	「家庭の中で活動する1ー傾聴と協働の実際ー」	オーガナイザー 戸田洋子 高橋由美子 セカンドステップ認定指導員 太田 喜乃氏
	13時～16時	「家庭の中で活動する2ー傾聴と協働の実際ー」	
11月22日 (木)	10時～12時	「シェアリング・修了テスト」	オーガナイザー 戸田洋子 高橋由美子
	13時～16時	「修了式・登録・交流会」	
11月29日 (木)	10時～12時	「修了後の個別面接」	オーガナイザー 戸田洋子 高橋由美子
	13時～16時		

養成講座会場案内図

- ◆会場 セントラルプラザ大島4階会議室
(江東区大島5-10-10)
都営新宿線大島駅 みずほ銀行上
- ◆交通 都営新宿線・大島駅出口A1直結
都バス亀21 亀24大島駅下車徒歩1分

ホームスタートとは・・・

未就学時(6歳以下)がいる家庭にボランティアが訪問する、イギリスで発祥の家庭訪問型子育て支援です。

ホームビジター養成講座を修了したボランティアが週1回2時間程度、無料で訪問します。(交通費は出ます)

訪問中は友人のように寄り添いながら「傾聴(話を聴く)」「協働(一緒になにかをする)」などの活動を行い、親が心の安定や自信を取り戻し、地域へと踏み出していききっかけづくりを支援します。

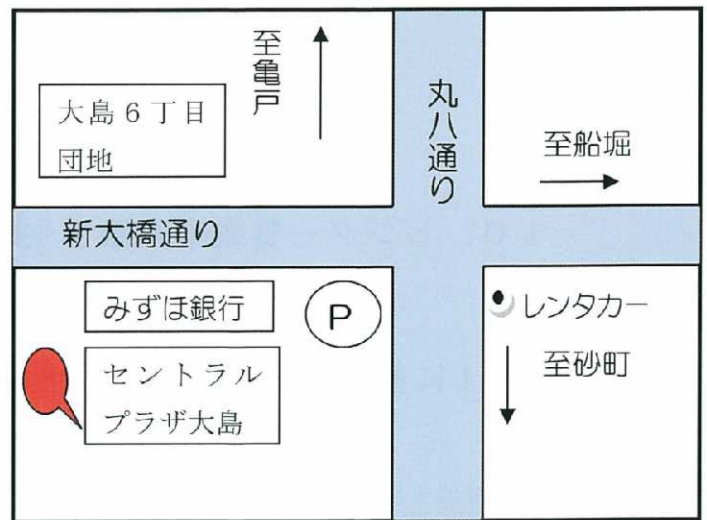
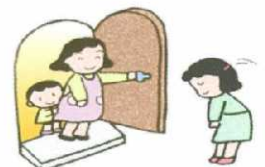
●お申し込み、お問い合わせ●

ホームスタート・こうとう 専用 Tel:090-2162-8835

FAX 03-3685-3267

e-mail mail@homestartkoto.com

<http://www.homestartkoto.com>



HSホームビジターの役割

<先輩ママのボランティア>

- ♥訪問を希望されている家庭へ訪問します。
- ♥親が自信を持てるように手助けします。
- ♥子育てを一緒に楽しんで、母親を勇気づけます。
- ♥親が持つ子育ての悩みが、自分だけではないことへの気づきを助けます。

ホームスタート・ホームビジター養成講座申込用紙

わたしは、ホームビジターとして活動したいので、ホームスタート・こうとうの実施するHSホームビジター養成講座の受講を希望します。

氏名(ふりがな) _____

勤務先・所属団体等 _____

《連絡先》

住所: _____

電話: _____ (携帯電話)

E-mail _____ @ _____

※ 頂いた個人情報は、本講座以外には使用しません。

1.1. 平成24年度の江東区の協働事業提案制度に採択

6月に、平成24年度の江東区協働事業提案制度に応募し、8月28日のプレゼンテーションに進み（資料編にプレゼンテーションのスライドを掲載）、平成25年度実施事業として採択されました。

その後、10月から2月にかけて、地域振興課協働事業担当の司会で、協働事業実施にむけての詳細協議会が4回開催されました。

担当課のこども未来部子育て支援課、保健所保健予防課との協議によって事業実施計画、予算、協定書、仕様書等の作成が行われました。

事業の目標達成と合わせて実施団体と担当課の信頼関係を築くことが「協働」の目的になるので、準備の段階から協議会で担当者同士が親しくなり、更に構成メンバー全員が交流を深め信頼関係を築くことができるように、もちろん「家庭訪問型子育て支援」によって孤立した子育てを無くすためにも行政の施策の内容をよく理解し、よりよく連携していけるように研修を通して、信頼関係構築が進められました。

2月から3月にかけて、ホームビジターを対象に保健予防課の母子保健事業に関するオリエンテーションと4ヶ月検診見学研修が実施されました。また、子育て支援課関係では、区内5か所の子供家庭支援センターの訪問研修と3月28日山本訓子要保護支援担当係長の「江東区の児童虐待防止・予防の施策について」研修を計画して頂きました。

これらの研修に取り組む過程で、保健所から乳幼児に接する機会が多くなるので、観衆参加に当たって胸部X線写真撮影を行い、「異常なし」の通知を持って研修参加の条件とすることや知りえた秘密を口外しない「秘密保持」の誓約書なども取り交わしました。秘密保持の誓約書は、ホームスタートとしてもすでに行っていましたが、胸部X線写真撮影までは行っていませんでしたので、保健予防課との「協働」の成果が実施前のじゅびの段階から現れ、一歩前進することができました。今後は、このような今まで実施していなかったことで行政との協働の中で新しく取り入れた方がいいものについては、どんどん取り入れて改善を図っていきたいと思います。

詳細協議の中では、これまで一件も苦情やトラブルがなかったことを高く評価していただきましたが、万が一の事故やけがなどに備えて、万全の態勢を整えていくことが大事なので、賠償責任保険の件や第三者による相談・指導・救済等の検討も引き続き行って明確にしていきたいと思います。

また、25年度の「協働事業」が終了した後の事業継続の見通しをどのようにしてつけていくのか、「虐待の発生予防」という区民にとって必要かつ緊急性のある「社会貢献度の高い事業」であれば、継続性の確保が極めて大事なので、この課題を早い時期にクリアーできる取り組みにしていかなければならない。

平成25年度は、オーガナイザーを2名新たに養成し、事務局体制を強化して、区民のニーズに応え、責任を果たし、信頼していただけるように取り組んで参ります。

1 2. 成果と課題

1. 訪問活動の成果

今年度は、前年度より10家庭多い41家庭を訪問することができました。イキイキカレンダー、ホームページ、リーフレットなどを見て本人が申し込んでくる方、利用家庭や小児科から紹介されて申し込んでくる方など「家庭訪問型子育て支援」の認知度が広がり、利用者がひろまりました。地域別統計を見ると砂町8、豊洲7、白河6、富岡4世帯の順に区内全地域で広がっています。江東区では、1年間に4300人以上の赤ちゃんが生まれ、人口増加と相まって赤ちゃんの出生数も増えています。地域の特徴としては、他の地域から移り、マンションやアパートのような高層住宅に住み、子育てをする世帯が増加し、親・家族や親せきや友達など支えてくれる方が近くに居なくて、孤立した子育てになってしまう傾向が強まっています。

訪問した家庭は、利用家庭の感想に表れているようにどの家庭も「訪問支援」によって安心感が生まれ、心や気持ちが元気になり、子育てが楽しいと思うように変化してきています。「訪問してもらって本当によかった。」と実感してもらえたことが一番大きな成果です。こうした気持ちに寄り添う支援活動で、自信を取り戻すことができ、結果として虐待予防にも大きな効果を発揮しました。

試行段階の訪問活動も含めて、110家庭を越す訪問実績を積み重ねてきましたが、1件もトラブルや苦情が発生しないで、訪問終了後も良好な関係で繋がっているのも大きな成果です。訪問活動がトラブル無くできるのは、ホームスタートのしっかりしたツールを活用して運営を進めたことと、質の高い研修を積んだオーガナイザーさんとビジターさんが緊密に連携を取り合っただけで活動を進めたことによるものです。

<訪問活動の課題>

子育てや教育は、人格と人格が触れ合っただけで新しい文化を創る努力の過程で子どもも大人も成長するものですから、結局は子育て教育に携わる「人」によるということができます。

ホームスタート・こうとうは、これからも研修と修養を積み重ねて、質の高い訪問活動ができるように努力してまいります。

また、利用家庭のアンケートには、「訪問回数を増やして欲しい。」「もっと早く知りたかった。素晴らしい活動なので、広く知らせて行って欲しい。」等の希望も書かれていました。

ホームスタートの原則がありますので、それに照らして、応えられるものと応えられないものを判断しながら検討していきます。できるだけ利用家庭の希望にそって、より充実した訪問活動ができるように改善を図っていきます。

2. 行政との連携の成果

江東区の協働事業に応募して、採択されました。25年4月からの実施を前に、準備の過程で、4回の詳細協議がもたれ、保健予防課、子育て支援課の研修が計画され、これまで直接情報交換をしたり、一緒に研修したりする機会がなかったが、今回の協働によって

それらが実現し、隔世の感があります。

<行政との連携の課題>

今後は、より具体的な意見交換や情報交換を行って、支援を必要としている家庭に支援を確実に届ける協力体制を作っていかなければならない。

おわりに

拝啓

2010年、2011年度、2012年度と3年間、貴機構の社会福祉振興事業の助成金を受けさせていただき、誠にありがとうございます。

今年度は、訪問活動が41家庭まで増やすことができ、ビジターも27名になり、トラスティーを含めると37名の組織になりました。地道な活動ですが訪問利用家庭からは、「本当にありがたかった。子育てが楽になりました。命を助けていただいたという気持ちです」というお礼の言葉もいただいています。

8月に実施した「ホームスタート・説明会」西郷教授の講演会には、江東区山崎区長様の代理で子育て支援課長田中様にご挨拶をくださいました。

そして、平成24年度江東区協働事業提案制度に採択され、25年4月から26年3月まで「家庭訪問型子育て支援」事業が協働事業として行われるようになりました。WAMの助成事業を継続させていただいたおかげで、5年間かけてようやく行政との区民協働事業化の道に近づくことができました。

家庭訪問支援「ホームスタート」は、虐待予防になくてはならないものです。

平成25年度は、子育て支援課、保健予防課と緊密に連携し、「協働事業」にしかできない、「夢」を実現する年にしたいと思っています。

WAMの助成制度は、全くのボランティア活動で、事業収益が見込めず、軽費はかかる私たちのような団体にはなくてはならないものです。毎年、説明会を開き、担当者が丁寧に事務のやり方を説明し、メールマガジンなども本当にありがたかったです。これからも、強い意志を持って、お金はないけれど、社会貢献を進めていこうとしているボランティア団体を末長く育てて行っていただきたいと思います。更にいっそう、努力して参ります。これからもご指導ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。

貴機構のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具

平成25年3月15日

こうとう親子センター副代表理事 藤沢千代勝

資料編 1 第4回ホームビジター養成講座記録

第4回ホームビジター養成講座記録（1日目）

平成24年10月4日（木）

司会・進行 戸田 洋子

高橋由美子

10:00 オリエンテーション

開講挨拶

こうとう親子センター代表 渡辺恵司

ホームスタート・こうとうトラスティー 藤沢千代勝

オーガナイザー、スタッフ紹介

10:20 研修の目的、流れ、活動について（高橋）

養成講座申込み書記入、提出

10:45 アイスブレイク

他己紹介

11:20 休憩

11:30 グループワーク

- ・なぜこの講座に参加したか
 - ・期待と不安、気になっていること
- グループごとに模造紙に記入し発表



12:00 昼食休憩

13:00 「家庭訪問型子育て支援ボランティアの役割と意義」藤沢 千代勝

・現代の子育て事情

- ・子育て支援のネットワーク作り
- グループワーク

- ・なぜ、今、家庭訪問型子育て支援が必要なのか、各自で発表

14:10 休憩

14:20 ホームスタートの概要

- ・ホームスタートの役割と範囲
- ・ホームスタートの効果
- ・活動の流れ
- ・ホームスタートの組織としくみ

15:30 質疑応答、感想

振り返りシート記入、提出



16:00 終了

第4回ホームビジター養成講座記録（2日目）

平成24年10月11日（木）

司会・進行 戸田 洋子

10:00 前回の振り返り（戸田）

アイスペイク（今の気持ちを色にたとえたら・・・）

10:15 「家庭とは何か、親とは何か」

HSJ 理事 雲雀 信子氏

・家族シート作成（自分が6才の時の家族形態）グループ内で話し合う
グループで1人発表する。

感想・改めて子どもの頃の状況を認識できた。

・今と昔の家庭環境の違いを感じた。

・今は、子育て支援から家族支援へと変わってきている

11:15 休憩

11:25 「子育ての現状と課題」（少子化、格差社会）

- ・ホームビジターに必要な視点を持つ
- ・子どもの育ちに敏感になる
- ・その人に1番合ったやり方を見つける
- ・良い家族をつくるための活動ではなく
家族の良いを見つける為の活動



12:00 昼食休憩

13:00 「子どもの理解」

・子どもの最善の利益をグループで話し合う

「子どもの育ちの理解」

・発達の段階の目安を知る

14:15 休憩

14:30 「子どもの権利条約」

・日本は、子どもの権利が守られているか
グループで話し合う

15:00 発表

・自己決定権と自己責任

質疑応答、感想

振り返りシート記入、提出



16:00 終了

第4回ホームビジター養成講座記録（3日目）

平成24年10月18日（木）

司会・進行 戸田 洋子

高橋由美子

10:00 前回の振り返り（高橋）
アイスブレイク（今日の気持と、家の中で好きな場所）

10:15 「傾聴と協働の意義①」 西田 葉子氏
・現代の子育て事情
・傾聴とは、協働とは
・守秘義務
・ビジターとしての心得



11:30 休憩

11:40 2人組でのロールプレイ（5分間話し、聴いてもらった感想を話す）
感想を発表

12:00 昼食

13:00 アイスブレイク（戸田）
「傾聴と協働の実際②」 西田 葉子氏
・子育て環境・自己肯定感が持てない
夫の協力
受容体験が必要
・ビジターとして感性を磨き、自分も大事
にすることで相手との信頼関係を築く



13:30 3人でのロールプレイ（話し手、聴き手、オブザーバーに分かれ、7分間）

14:20 ロールプレイを行った感想を発表

・声かけのタイミング、言葉選び、沈黙の時間が難しかった（聴き手）
・マイナスに思っていたことをプラスにとってくれ、とりかたによって気持ちが変わると思った（話し手）
・素直に相手を受け止める気持ちがあれば、表情で伝わると思った。

15:40 質疑応答、感想
振り返りシート記入、提出

16:00 終了

第4回ホームビジター養成講座記録（4日目）

平成24年10月25日（木）

司会・進行 戸田 洋子

高橋由美子

- 10:00 前回の振り返り（戸田）
アイスブレイク（秋といえば・・・）
- 10:15 「家庭で活動する上でのポイント」 戸田 洋子
＜ホームスタートの理念＞
・自分が孤立していると感じた時があるか、その時どんな状況が起きるか
- 10:30 発表
- 10:45 ＜ホームスタートの原則＞
・気持ちに寄り添い、フレンドリーな関係で、指示指導はしない
- 11:15 ＜ホームスタートの倫理＞
・ホームスタート活動の指針
- 11:25 守秘義務はなぜ必要か、グループで話し合い
- 11:35 発表
・信頼関係を築くことが大切で、聞きだすのではなく聞かせて頂く活動
- 12:00 昼食
- 13:00 アイスブレイク
「ホームビジターの実務」 高橋 由美子
・活動の順序に沿って実際の活動内容を具体的に説明
・活動のルール、ツールの使い方
- 13:50 訪問時の一般的な注意事項をグループで話し合い発表
- 14:30 ロールプレイ①（事例に基づき、それぞれの役を体験する）
- 14:55 ロールプレイ②（別の事例で、それぞれの役を体験する）
- 15:30 ・シート記入
・感想を話し合う
・質疑応答、感想
- 15:50 振り返りシート記入、提出
- 16:00 終了



第4回ホームビジター養成講座記録（5日目）

平成24年11月1日（木）

司会・進行 戸田 洋子

10:00 前回の振り返り（戸田）

10:10 「江東区の子育て支援政策」子育て支援課 課長 田中 洋二氏

1. 江東こども未来プランに基づく7つの基本目標と5つの基本的視点（次世代育成支援行動計画 後期計画）
 - ・リーマンショックで大きく変化した経済の低迷とそれによる影響
 - ・共働きが増えることにより待機児童も増える
 - ・マンションの乱開発で行政の対応が難しくなっている
 - ・細やかなニーズに対応するために地域での横のつながりが必要
2. 調査結果に見る子育ての現状
 - ・子育てに対する不安感、負担感から見えてくるもの
3. 江東区の児童虐待の状況
 - ・「虐待予防」重視の子育て支援策への転換
 - ・江東児童相談所の設置
4. 目標実現に向けて、当面の方針
 - ・子育てしやすい環境
 - ・学童クラブ、保育所待機児童数0へ
 - ・児童虐待の発生防止
 - ・区内補導人員の削減
 - ・地域環境の安全



12:00 昼食

13:00 「問題や悩みのある家庭への理解」

南砂子ども家庭支援センター

所長 依田 幸子氏

- ・先駆型子育て支援施設「みずべ」の取り組み
- ・高層マンションでの子育て事情
- ・周りにサポートがあれば力を発揮できる
- ・発達が気になる子どもの関わり
- ・擬似体験の必要性と自尊感情の保持

15:00 ワーク（自分の傾向を知る）

- ・自分の体験、立場は切り離せない
- ・自分の感情をコントロールし、無理せず距離感を保つ気遣いが大事
- ・子どもは、親と他人を使い分ける

振り返りシート記入、提出



16:00 終了

第4回ホームビジター養成講座記録（6日目）

平成24年11月8日（木）

司会・進行 戸田 洋子

高橋由美子

10:00 前回の振り返り

10:10 「家庭の中で活動する1－傾聴と協働の実際－」セカンドステップ認定指導員
大田 喜乃氏

1. ボランティアの基本的考え
2. ビジターの基本的性格（ピアサポーター）
3. 専門家・ホームヘルパー・ベビーシッターとの違い
4. ビジターの姿勢「傾聴・協働・秘密保持」
5. 目標：母親に自信をもってもらう
6. 不安、疑問に思っていることのシェア
7. ビジターの役割
8. ホームスタートの特徴
 - ・アウトリーチのメリット、デメリット、
アドバイスを求められた時について個人
でワークシートに記入し、グループで話し合い、発表



12:00 昼食

13:00 「家庭の中で活動する2－傾聴と協働の実際－」
協働ワークショップ（モデリング・プロプティンク・シェーピング）
グループワーク

14:10 発表

14:35 事例に基づきロールプレイ
グループで事例検討

15:15 発表、感想

15:20 アイスブレイク

15:30 質疑応答

事務連絡

15:50 振り返りシート記入、提出



16:00 終了

第4回ホームビジター養成講座記録（7日目）

平成24年11月22日（木）

司会・進行 戸田 洋子

高橋 由美子

10:00 前回の振り返り（戸田）

・シェアリング

・マズローの原則原理

10:20 修了テスト

11:00 休憩

11:10 地域の子育て支援の実際と連携

ホームスタート・こうとう代表 藤沢 千代勝

・子育て支援のための制度や社会資源の紹介

11:30 修了テストの解説と振り返り

12:00 昼食

13:00 アイスブレイク（カードを使って） 戸田

・登録用紙の記入

13:15 ワーク

・お互いを認め合うこと、相手を尊重することの確認

13:50 修了式（修了証授与）

14:00 ・交流会

・講座を終えての感想

15:30 事務連絡

振り返りシートの記入提出

16:00 終了



第4回ホームビジター養成講座記録（8日目）

平成24年11月29日（木）

担当：戸田 洋子

高橋 由美子

10:00 修了後の個別面接

～12:00

13:00 修了後の個別面接

江東区協働事業提案制度公開プレゼンテーション
平成24年8月28日


**「家庭訪問型子育て支援」
ホームスタート・こうとう**



ホームスタート・こうとう
オーガナイザー 戸田 洋子
オーガナイザー 高橋 由美子

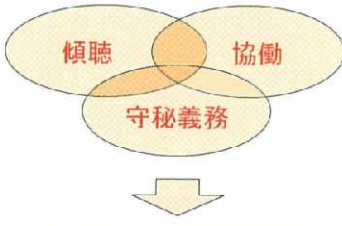
「待つ支援」から「届ける支援」へ

新しいかたちの子育て支援




外出したくてもできない方へ
転居して間もない方などへ
家庭に訪問して支援を届けます

ホームスタートの特徴・独自性



親の気持ちに寄り添い、
安心・元気をつくります。



ホームスタートの役割と範囲

	対象が「親」	対象が「子ども」
深刻	<ul style="list-style-type: none"> ●児童相談所・児童福祉施設による指導・支援 ●育児支援家庭訪問事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童養護施設への入所 ●児童相談所での通所指導
軽微	<ul style="list-style-type: none"> ●地域子育て支援拠点事業 ●ノーバディズパーフェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ●保育所 ●ファミリーサポート事業 ●ヘルパー派遣(育児等) ●ベビーシッター派遣


産褥期&引きこもりがちな親子 ← ホームスタート

ホームスタートの効果


虐待の発生予防

ひきこもりがちな親への支援

親の自己肯定感の回復



利用家庭の感想



・一緒に行ってもらえたので、子連れでのお出かけが苦痛ではなくなりました。

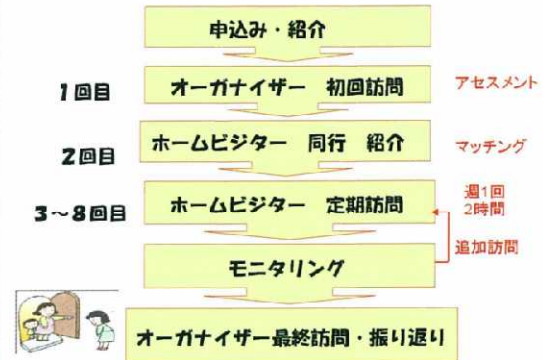
・子育てを通して地域の人と知り合え、世代が違って会話に共感できる部分があり、自信につながりました。

ホームビジターの感想



- ・ どのお母さんも本当に一生懸命子育てしていることが分かります。
- ・ ママさんの心に寄り添いお話を聴いていただけですが、心の荷物をご自分で整理されていたのだと思います。

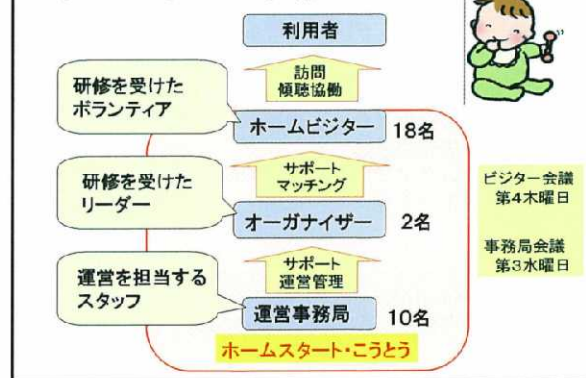
ホームスタートの活動の流れ



ホームスタートの活動の流れ



ホームスタートの組織としくみ



ホームビジター養成講座

毎年1回実施、16名養成



全8回 週1回 40時間

- <研修内容>
- ・ 傾聴・共感スキル
 - ・ 訪問実務
 - ・ 守秘義務
 - ・ 子どもの人権
 - ・ 家庭の理解
 - ・ 子どもの成長発達
 - ・ 産褥期支援
 - ・ 訪問活動の実際 (ワークショップ) など

家事代行ではないこと、
上から目線ではないこと を身につける

質・効果の高い訪問活動の保証

区と民間の「協働」の必要性

ハリソン・マーガレットさんは、
専門職からボランティアに転身して
ホームスタートをつくった



- ・ 専門家が行う虐待防止
- ・ ボランティアが行う虐待予防
- ・ 官と民が連携して効果を上げる

**訪問家庭のニーズに応え
親子の笑顔をつくります**


ホームスタートは「安心」「自信」をつくり
虐待の発生を予防します



フレンドシップ・ピアサポートの精神
ありのままを受け止め寄り添う
指導や押しつけをしない


区と民間の「協働」のメリット

行政の持つ信頼性支えられ
多くの区民に
家庭訪問支援を届けられる



子育てのスタートで支援にであう
利用者が次は支援者→循環型支援
「ネットワーク」→参加型の支援

協働の結果、実現できること



1. 必要な家庭への訪問支援の実現
2. 親子の愛着（絆）を深め、子育ての自立支援
3. 虐待の発生予防
4. ボランティアの増加と地域の支援者育成
5. 地域ネットワークの促進

↓

子どもの命を守り・子育てにやさしいまち
未来を担う子ども達が健全に育つまち

平成24年度協働事業提案制度 採択事業

地域の課題を区と協働で解決

「家庭訪問型子育て支援」事業

事業の拡充

事業経費

200万円


◆事業内容

市民団体(町会・自治会、NPO、ボランティア団体等)と区が協力して、地域課題の解決に取り組むため、協働事業提案制度で採択された事業を実施します。

◆目的

採択事業の実施を通じて、地域へ協働に対する理解を広め、市民団体の柔軟な発想や専門性を公共サービスに取り入れる仕組みを推進します。

◆採択事業

事業名	家庭訪問型子育て支援	
提案団体	こうとう親子センター	
目的	孤立した子育ての不安を解消し、児童虐待等を未然に防止します。	
主な内容	① 週1回、2時間程度、ボランティア(ホームビジター)が訪問を希望する家庭を訪ね、傾聴による支援を実施 ② ホームビジターを育成する養成講座の実施 ③ ホームビジターが家庭訪問の事例などを共有し、より良い子育て支援を目指すビジター会議等の開催 ④ 子育てを支援し見守る地域づくり	
事業担当課	子育て支援課	

◆これまでの採択事業

採択年度	採択事業
平成22年度	○スクリーンシアター上演事業 ○プレーパーク(冒険あそび場)運営事業
平成23年度	○こうとうむかしばなし事業 ○公園を通した地域コミュニティ形成活動事業 ～区民がつながり守り育てる公園づくり～

※事業は、採択された翌年度に実施

長期計画の該当項目：施策17 コミュニティの活性化

担当課：地域振興課
 窓口：4階25番

電話：3647-8570
 内線：2443



子育てしているあなたを
サポートします。



先輩ママがあなたの家に訪問します。

ご利用の流れ

申し込み・紹介

電話かメールでご連絡ください。

オーガナイザー初回訪問

オーガナイザーが訪問します。
ご希望を伺い、訪問内容を一緒に決めます。

ホームビジター同行紹介訪問

オーガナイザーとビジターと一緒に訪問します。
顔合わせをして訪問の日程を調整します。

ホームビジター訪問

ホームビジターが週1回2時間程度
6回訪問します。

オーガナイザー最終訪問

オーガナイザーが訪問し、訪問活動の感想・意見を伺い
振り返りをします。(必要に応じ延長可能)

- ホームビジターは、研修を受けた子育て経験のある人です。良き友人として子育てを応援します。
- オーガナイザーは、あなたとビジターをコーディネートする人です。

お気軽にお問い合わせください！

メールでも

お問い合わせいただけます！

ホームスタート・こうとう

ご利用のお問い合わせ・お申し込みは…

090-2162-8835

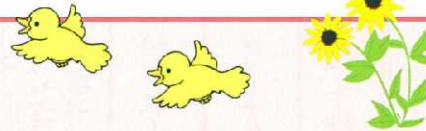
(ホームスタート・こうとう 専用番号)

HP・Eメールからも申し込みいただけます

<http://www.homestartkoto.com>

Eメール: mail@homestartkoto.com

(代表) 藤沢 千代勝



◆活動団体◆

こうとう親子センター

〈事務所〉東京都江東区大島2-9-28

〈代表理事〉渡辺 恵司

私たちは、「江東の子どもたちと子育てのために、
自分たちの手で出来る支援をしよう」と有志が
集まったグループです。

<http://www.kotooyako.com>

Eメール: info@kotooyako.com

家庭訪問型子育て支援

ホームスタート・こうとう



♥♥ご家庭のプライバシーを守り、
ママの気持ちに寄り添って応援します！



ホームスタート・こうとうは、ホームスタート・ジャパン
の団体会員として世界22カ国以上のホームスタート
団体とのネットワークに加盟しています。

＝江東区協働事業提案制度 平成25年度実施事業＝

「待つ支援」から「届ける支援」へ！

ホームスタートとは…

イギリスで30年以上にわたって実践されている
家庭訪問型子育て支援「ボランティアが訪問する」
事業です。



未就学児
(6歳以下)の
お子様のいる
家庭へ

無料!

週1回2時間
程度
6回訪問

傾聴
友人のように
寄り添いながら
話を聴きます

協働
(育児や家事を
一緒に行う)
ベビーシッターや
家事代行は
行いません

**秘密は
守ります**
訪問中の
プライバシーに関する
情報は、慎重に
扱います

子育て中……こんなふうを感じることはありませんか？

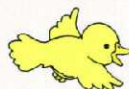
誰とも話していない…
話を聞いて欲しい…

誰かにちょっと手を貸して欲しい…

近くに頼れる人がいない…

検診や病院に一人では大変…

はじめての子育て、不安、
どうしたらいいの…



こんなとき困る、
どうしたらいいの…



こんな育児のやり方でいいの……

下の子が生まれてから
上の子と遊ぶ時間がとれない…

引っ越してきたばかり…
近所のことわからない…

何で泣いてるの…
ずっと抱っこ… イライラする…

子育て中のあなたのお宅にホームビジターが訪問します。

平成24年度

ホームスタート・こうとう活動報告書

平成25年3月21日 印刷

平成25年3月21日 発行

編集・発行 ホームスタート・こうとう

責任者 藤沢 千代勝

印刷 株式会社 プリントパック 東京支店

東京都千代田区神田神保町2-4-63

TEL 03(5656)5101